

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

| | | | | | |
|-------|--|--------------------------|--|------------|--|
| 一般会計 | | 事務事業分類 | | 詳細点検 | |
| 事務事業名 | | 結核接触者健診・患者管理 | | A 一般事務事業 | |
| 担当部署名 | | 健康福祉 局 健康部 保健所 部 感染症対策 課 | | シート番号 | |
| | | 健康福祉 局 健康部 保健所 部 感染症対策 課 | | 11-234 | |
| | | 健康福祉 局 健康部 保健所 部 感染症対策 課 | | 評価責任者(課長名) | |
| | | 健康福祉 局 健康部 保健所 部 感染症対策 課 | | 中井 | |

Ⅰ. 基本情報

| | | | | | | |
|------|---------|---|----------------------------|---|--------------------|-------------|
| 基本情報 | 1 | 堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け | 政策 | 1 | 暮らしの確かな安全・安心を確保します | 後期実施計画の位置付け |
| | | | 施策 | 1 | 市民の命を守る健康・医療体制の強化 | 無 |
| | 2 | 事業開始年度 | 昭和 26 年度 | | 終了(予定)年度 | — 年度 |
| | 3 | 根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等) | 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 | | | |
| | 4 | 関連計画 | | | | |
| 5 | 事業実施の経緯 | 結核は、かつて国民病と言われるほど患者数も多く、また不治の病と恐れられていた。治療薬の普及、栄養・衛生状態の改善などにより患者数は激減したが、未だに国内で毎年約17,000人の結核患者が新たに発生し、毎年約2,300人の人が結核で亡くなっている。現在も患者等の人権に配慮しながら、治療終了後の患者や接触者が適切な時期に健診を受け、発病や再発を早期に発見できるよう、支援が必要である。 | | | | |

Ⅱ. 事業概要

| | | | | |
|------|--------------|---|--|--|
| 事業概要 | 6 | 事業の実施主体(誰が実施しているのか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 () | |
| | 7 | 事業の対象(誰を、何を対象としているのか) | 全市民 | |
| | 8 | 事業の目的(どのような状況にしたいのか) | ①治療終了後の患者が適切な時期に健診を受け、再発の早期発見を支援する。 ②接触者に対し、健診を実施し、発病前の潜在性結核感染症(LTBI)及び発病を早期に発見する。 ③患者の発生状況を国に報告することにより、全国的な結核対策に役立てる。 上記①②③により地域での結核のまん延を防止する。 | |
| | 9 | 事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど) | ・患者家族及び接触者健診の実施 ①IGRA検査(結核菌の感染の有無についての血液検査) ②胸部エックス線検査等(結核発病の有無についての検査) ・管理検診の実施(治療終了後の患者に対する精密検査) ①胸部エックス線検査 ・患者管理の実施 ①喀痰塗抹陽性患者への面接 ②登録者情報システム等による患者管理 | |
| 10 | 直接実施以外の主な支出先 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 一般社団法人 堺市医師会 ほか | | |

Ⅲ. 投入量

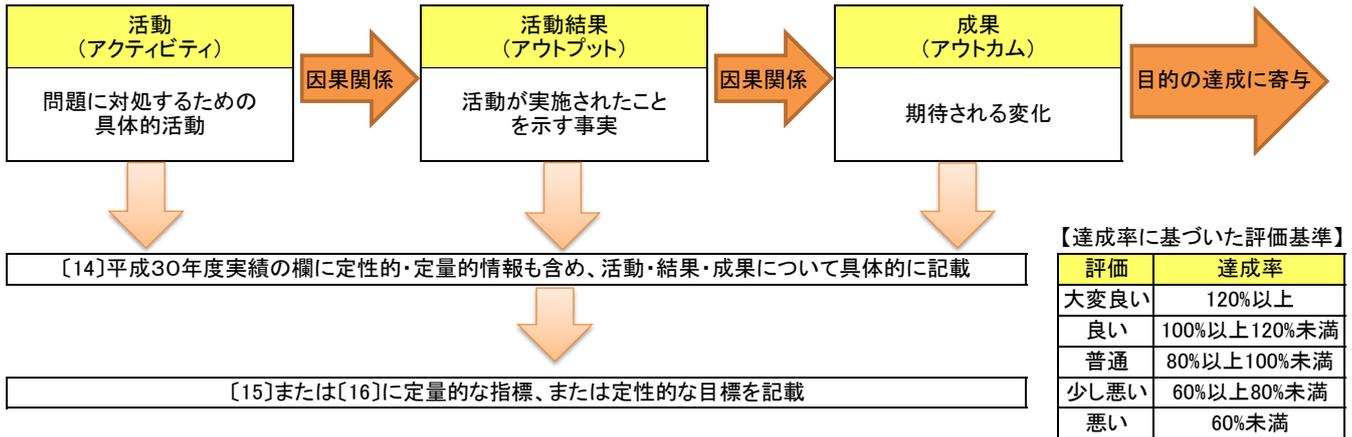
| 項目 | 単位 | H28年度決算 | H29年度決算 | H30年度決算 | R1年度予算 | |
|--------------------|------------------|---------|---------|---------|--------|-------|
| 事業費 (a) | 千円 | 7,550 | 8,237 | 7,932 | 8,559 | |
| 11 主な事業費内訳 | 委託料 | 千円 | 5,632 | 5,485 | 6,029 | 6,222 |
| | その他(需用費等) | 千円 | 1,918 | 2,752 | 1,903 | 2,337 |
| | | 千円 | | | | |
| | | 千円 | | | | |
| 財源内訳 | 国・府支出金 | 千円 | 5,840 | 2,550 | 2,692 | 2,859 |
| | 受益者負担金(使用料、手数料等) | 千円 | | | | |
| | 市債 | 千円 | | | | |
| | その他() | 千円 | | | | |
| 一般財源 | 千円 | 1,710 | 5,687 | 5,240 | 5,700 | |
| 12 人件費 (b) | 千円 | 27,006 | 22,856 | 24,460 | 23,870 | |
| 13 総コスト(c)=(a)+(b) | 千円 | 34,556 | 31,093 | 32,392 | 32,429 | |

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

| | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------|
| 事務事業名 | 結核接触者健診・患者管理 | シート番号 | 11-234 |
|--------------|--------------|--------------|--------|

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

| 平成30年度実績 | | | | | | | | |
|----------|----|--|----|--|--------|--------|-------|-----|
| 活動実績と成果 | 14 | <p>結核の患者が発生した場合、保健師による疫学調査を実施し、接触者等の確認を行う。調査結果を基に月2回、所内で開催する接触者健診検討会において接触者健診実施対象者を決定する。健診内容は主に医療機関委託の胸部エックス線検査と血液検査(IGRA検査)(一部保健所実施)で、場合によっては菌検査やツベルクリン反応検査を追加実施する。平成30年は胸部エックス線検査受検者数514名、IGRA検査受検者数664名のうち潜在性結核感染症(LTBI)と診断されたものが21名、結核と診断されたものは5名だった。感染源及び感染経路の調査では全新登録喀痰塗抹陽性患者の菌株を病院等からの分譲を受け、同一遺伝子型の菌での集団発生等がないか注視している。</p> <p>また、治療終了後の患者に対しては再発防止のため管理検診を実施した。検診内容は医療機関委託の胸部エックス線検査で、こちらも場合によって菌検査を追加実施する。平成30年は延べ234名実施し、結核再発が判明した者が1名だった。</p> <p>また感染症法第19条及び第20条の規定に基づき、応急入院後3日以内に面接を実施した。面接により適切な患者管理と感染症法第20条に基づく勧告入院に係る意見付与を行った。</p> | | | | | | |
| | 15 | 指標名 | 単位 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
| | | 接触者健診受診率 | % | 目標値 | 98 | 98 | 100 | 100 |
| | | | | 実績値 | 97 | 96 | 97 | |
| | | | | 達成率 | 99% | 98% | 97% | |
| | | | | 評価 | 普通 | 普通 | 普通 | |
| | | 算出方法・設定根拠など | | 新規登録患者の接触者のうち2か月以内に実施した健診者数の割合 | | | | |
| | 16 | 指標名 | 単位 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
| | | 3日以内の面接実施率(新登録喀痰塗抹陽性患者) | % | 目標値 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | | 実績値 | 98 | 100 | 100 | |
| | | | | 達成率 | 98% | 100% | 100% | |
| | | | | 評価 | 普通 | 良い | 良い | |
| | | 算出方法・設定根拠など | | 新登録喀痰塗抹陽性患者のうち感染症法第19条に基づく応急入院後3日以内に面接を実施した患者の割合 | | | | |

業績の分析

| | | |
|----|--|---|
| | | 目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析) |
| 17 | | <p>接触者健診については対象者へ健診の勧告を送付し、電話等でも説明を行っている。受診されない対象者には改めて再勧告と電話等での説明を行っているが目標は達成できなかった。結核や接触者健診の重要性について啓発を強化するとともに、実施協力医療機関を増やすなど接触者健診受診の利便性を高める必要がある。なお、未受診者に対しては定期的に本人や関係者と連絡を取り、健康状態の確認を行っている。</p> <p>新登録喀痰塗抹陽性患者に対し、感染症法第19条に基づく応急入院後3日以内の面接実施を徹底することができた。厚生労働省による公衆衛生関係事務指導監査において定期的にチェックを受け、確認を行っている。</p> |

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。